



平成 30 年 9 月 20 日

各 位

東京都渋谷区恵比寿一丁目 20 番 8 号

株式会社オールアバウト

代表取締役社長 江幡 哲也

(コード番号：2454)

問い合わせ先 取締役執行役員 C A O 森田 恭弘

電話 03-6362-1300

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 30 年 5 月 10 日に公表いたしました平成 31 年 3 月期の業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

平成 31 年 3 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想数値の修正（平成 30 年 4 月 1 日～平成 30 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	7,600	220	200	200	15.29
今回修正予想（B）	7,000	△25	△50	0	0.00
増減額（B－A）	△600	△245	△250	△200	
増減率（％）	△7.9	—	—	△100.0	
（ご参考）前期第 2 四半期実績 （平成 30 年 3 月期第 2 四半期）	6,562	321	321	247	18.41

平成 31 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	15,800	700	670	500	38.22
今回修正予想（B）	15,400	380	330	220	16.79
増減額（B－A）	△400	△320	△340	△280	
増減率（％）	△2.5	△45.7	△50.7	△56.0	
（ご参考）前期実績 （平成 30 年 3 月期）	13,941	668	659	326	24.62

2. 修正の理由

上期において、マーケティングソリューションセグメントでは、コンテンツ提供売上やエディトリアル広告等の受注が計画を下回って推移しました。

コンシューマサービスセグメントでは、サンプル百貨店の商品拡充、利用者増加が進捗し、売上は前年を上回る水準で進捗したものの、計画を下回る推移となりました。

以上の結果、平成31年3月期第2四半期(累計)の売上高は7,000百万円、営業損失は25百万円、経常損失は50百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は0百万円の見込みとなりました。

通期業績につきまして、マーケティングソリューションセグメントでは、コンテンツ提供売上やエディトリアル広告等の受注状況、検索エンジンのアルゴリズム変更によるサイト利用者減少等のリスクを織り込み、計画を見直しました。

コンシューマサービスセグメントでは、主力のサンプル百貨店が、直近の業績をふまえ、下期においては当初計画を上回る見直しを行いました。

以上の結果、平成31年3月期の売上高は15,400百万円、営業利益が380百万円、経常利益が330百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が220百万円の見込みとなりました。

当社グループは、当期を、中期的な事業基盤構築における投資期として位置付けております。この方針のもと、当社は、昨年3月に日本テレビ放送網株式会社と、そして本年5月に株式会社NTTドコモと、相次いで資本業務提携を行っており、来期以降の提携効果を上げるべく、同二社との事業連携を積極的に推進しております。当該取り組みを含め、当社の主力事業領域である「メディア広告&ソリューション」と「トライアルマーケティング&EC」における非連続的な成長の実現や、それら事業領域に次ぐ第3の柱となる事業の育成といった中長期的な企業価値向上に繋がる投資については、当期以降も継続して行っていく予定であります。

(注) 本資料に記載されている業績予想等将来に関する内容は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因にかかわる本資料発表日現在における仮定を前提としており、実際の業績は今後の様々な要因によって異なる可能性があります。

以 上